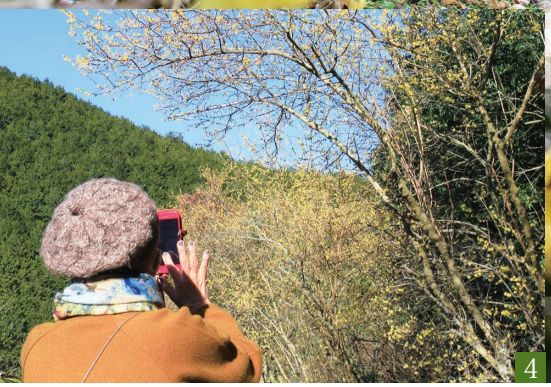
伝えたい
残したい
わがまちの
誇り

ふるさとの情景

VOLUME 23

流谷地区（蝋梅の里）



天見駅の西、八幡神社を通り過ぎ、看板のある角を曲がると、蝋梅（ろうばい）の花で黄色く染まった里山が広がっています。ここは、流谷の「蝋梅の里」。約30メートルにわたって続く蝋梅並木が1月初旬から2月下旬に見ごろを迎えます。地元の有志が農道の脇に蝋梅を植えたのが約20年前。種から育てた蝋梅も、今では見上げるほど立派な樹に成長しました。

蝋細工のような艶のある花びらと梅特有の爽やかな香りが、訪れる人々を楽しませてくれます。なかには評判を聞いて、他県から来られる人も。この日も青い空と黄色い花の対比が美しく、ゆっくり散歩したり、写真を撮ったり、香りを楽しんだり、それぞれに楽しむ様子がみられました。

三月の旧名である弥生は、たくさん（くさ）の植物がいっそう生（いや）い茂（おい）るという意味の草木弥生月（つき）に由来します。暖かい春の陽気ももうすぐです。

▲天見の里山をドローン撮影した動画はこちら

1取材時にお会いしたウォーキングサークルのみなさんは「蝋梅のトンネルみたい！」と歓声を上げていました　2目印の看板　3八重の蝋梅は香りが強いそうです　4思わず写真を撮りたくなる可憐な花

ふるさとのひと

的場 憲一さん

流谷地区がもっと華やかになればと思い、試行錯誤しながらも蝋梅を育てはじめました。今では多くの方が訪れる名所に。蝋梅を見に来られたとの会話を楽しんだり、写真をプレゼントしてもらうなど、交流のきっかけにもなっています。生まれ育った地域を盛り上げる計画が花開いて感慨深い思いです。

今後はほかの場所にも植えたいと考えています。南天の赤、蝋梅の黄色、山の緑…自然の色豊かな天見になればと思っています。

市役所の住所・電話番号などは 2ページをご覧ください▶